

★100歳おめでとうございます



松川チヨノさん
明治41年3月20日生（松崎町）

Town Topics

～まちのわだい～



歌や踊りが大好きな朗らかな性格で、校区の運動会では町内対抗の仮装大会に参加され、やっこ姿で踊ったり、みんなの盛り上げ役だったとのこと。長生きの秘訣は「ごはんをしっかり食べて、一生懸命働くこと」だそうです。

★森さんが森を守る

マイ箸をプレゼント



▲腹八分目と焼き入れしてある箸をプレゼントされた
坂田市長

田中北町の森宣夫（もり のぶお）さんから、3月13日、坂田市長に竹製の手作りの箸がプレゼントされました。森さんは、3年前から森を守るために、竹製のマイ箸作りに取り組みされており、割箸の使い捨てをやめ、身近なことから地球温暖化防止に取り組んでほしいとの思いから、市職員全員に手作りの箸をプレゼントされる予定で作業を進められています。

森さんは「市全体に広がり、みんなが取り込もうと思う意識が必要。まずは、小学生と箸作りをしながら環境意識を植え付けたい。」と話されました。

★よみがえる学び舎の思い出

松高小学校大島分校閉校記念式典



▲みんなで校歌を歌って別れを惜しみました

松高小学校の大島分校が平成19年度末をもって閉校されることとなり、3月30日、地元住民らの手による記念式典が開催されました。

式典には、地元住民を始め、卒業生、元教職員など約120人が出席し、校庭で遊んだ思い出や先生と生徒とのふれあいなど、懐かしい思い出話が語られる中、明治13年の開校以来128年の歴史に幕が閉じられました。

式典の最後には、松高小学校の生徒たちと一緒に校歌が斉唱され、続いて校舎前に建立された記念碑の除幕も行われました。

★勇気と行動に感謝します

市消防団東陽方面隊に感謝状



▲市消防団東陽方面隊と氷川警察署長

4月1日、氷川警察署で人命救助活動に対する表彰式が行われ、八代市消防団東陽方面隊に感謝状が贈られました。

これは、3月5日、東陽町にある山林で男性が道に迷って行方不明となったもの。捜索は、深夜に及び気温零下で残雪のある山間部のため困難を極めました。午後11時頃、憔悴してうずくまっているところを発見されました。

氷川警察署長から「みなさんの勇気と行動に感謝します」とお礼の言葉がありました。

★かすかな声が聞こえた

八代広域事行政事務組合消防表彰



▲右から：高松君代さん・坂田八代市長・中村哲秀、久子さん御夫妻

3月20日に発生した水難事故での人命救助活動に対し、3月31日、市長応接室で表彰式が行われました。

これは、水量が多く、流れも速い海士江町の農業用水路で女性が流されそうになっていたもので、中村さんらは、迅速な通報とともに女性が流されないようつかまえて、円滑な救助活動に貢献されました。

★安心・安全な水を

東陽町河俣地区簡易水道通水式



3月28日、東陽町河俣地区に新しい簡易水道施設が完成し、地元住民や関係者など約40人が参加して通水式が行われました。

これまでの施設は昭和36年に整備され、老朽化が進み取水口の落ち葉などによる目詰まりや土砂の流入、配水管の漏水などにより頻繁に断水などの問題が発生していたことから、今回の施設整備は地元住民の悲願でした。

式では、坂田八代市長から「おいしくて安心・安全な水を安定して供給できるよう努力していきたい」と挨拶があったあと、テープカットと同時に通水管のバルブが開かれました。

★協力しあってまちづくり

やつしろ市民フォーラム



3月15日、「やつしろ市民フォーラム」が鏡文化センターで開催され、約600人の市民が参加されました。

基調講演では、住民参加型のまちづくりについて、熊本県立大の桑原隆広教授が徳島県上勝町の事例を取り上げ、住民の意識の持ち方による成功した事例を紹介。坂田市長はじめ住民代表も参加したパネルディスカッションでは、「みんなでつくる元気なやつしろ」をテーマに、住民自治における住民と行政の協働のあり方やまちづくりに対しての市職員の意識向上が必要などの意見がでました。

★雨の日奈久賑わう

日奈久温泉スプリングフェスタ



▲白熱した取組に会場からは声援が飛ぶ

3月30日、日奈久温泉街一帯でスプリングフェスタが開催され、大勢の来場者で賑わいました。

雨天のため、日奈久小学校に場所を移し開催された「第3回熊本県選抜ちびっこ相撲日奈久大会」では、会場からわき上がる声援の中、約80人の園児らが熱戦を展開。また「日奈久温泉マラソン大会」には県内外から約400人のランナーが参加し、健脚を競いました。

また、日奈久温泉旅館組合が土山憲幸氏（ホテル熊本テルサ総支配人・坂本町出身）の協力を得て行った「食の開発」料理発表会も同時開催され、竹の器入りの「火流の彩（ひなぐのいろ）たこ飯」など数々の創作料理がならび、「日奈久竹輪焼き体験」コーナーなどとともに親子連れで賑わいました。

★悠久の自然を守り伝えよう

上宮クスノキ天狗の森を設定



▲森の中での記念撮影

このほど、妙見町の国有林の一部が「八代植物友の会」によって「上宮クスノキ天狗の森」に設定され、3月22日、現地で記念式が執り行われました。

設定されたのは、上宮付近の0.36ヘクタール。この一帯は、100本を超えるクスノキが残る、九州でも珍しい群生地帯だそうです。

式典では、同会の永松会長が「この素晴らしい自然を、市民共通の財産として後世に伝えたい」とあいさつ。現地には、森の植生などを紹介する表示板が建てられ、式典終了後は、参加者たちが森の中の散策を楽しみました。

★いんにやく 印 鑰 神社春季大祭

ふな 鮒取り神事

★スーパーおれんじ号発進！

JR 熊本駅への直通運転開始



▲「スーパーおれんじ」号 運行開始



▲日奈久温泉女将の会の皆 さんによる宣伝（熊本駅構内）

3月15日、肥薩おれんじ鉄道のJR熊本駅への乗り入れが始まりました。

この日の朝から行なわれたセレモニーでは、「スーパーおれんじ」号という直通列車の愛称・最優秀者の表彰式やテープカットが行なわれ、第1便となる列車が満席の乗客を乗せて熊本駅へ向けて発進しました。また、到着した熊本駅では、日奈久温泉の女将さんらが、肥薩オレンジ鉄道沿線の観光パンフレットなどを配り快速電車の運行をPRしました。

直通列車の運行は土・日曜、祝日の朝夕一往復ずつで、熊本―出水駅間を約1時間40分で結びます。



4月7日、印鑰神社（鏡町）春季大祭が行われ、神馬や神幸行列が街なかを練り歩いたあと、鮒取り神事が行われました。

鏡ヶ池周辺には約2,500人を超える大勢の見物人が見守る中、故事に習い、勇壮なふんどし姿の地元青年を中心に総勢約70人が太鼓の合図と共に鏡ヶ池に一齐に飛び込み、フナを手づかみにしました。

また、投げつけられる泥に観客も歓声を上げながら、逃げ回りました。この泥を浴びると、その年は無病息災であるといわれています。